

村 長	副村長	課 長	係 長	課 員	担 当

報 告 書

項 目 桧原地区 「みらいトーク！」 実施報告書

日 時 令和 8 年 7 月 22 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所 桧原集落集会所

事 務 局 総務企画課長、企画係長、穴戸、大内、佐藤（路）

出 席 者 2 名

1 目的

令和 9 年度から始まる第 6 次総合振興計画の策定に向け、桧原地区の現状や将来への不安、残したいもの、10 年後に向けて必要な取組等について意見を聴取するため、桧原地区「みらいトーク！」を実施した。

2 実施概要

はじめに、村から第 6 次総合振興計画の策定趣旨や計画骨子の考え方について説明した。その後、参加者及び村職員が自己紹介を行い、地区との関わりや日頃感じていることを共有した。

意見交換では、桧原地区のビジョンマップを活用しながら、残したいもの、大切にしたいもの、心配なこと、今後あったらよいものなどについて話し合った。また、付箋を用いて意見を出し合い、地図上の場所や地区全体の課題・希望と結び付けながら整理した。

3 主な意見

（1）人口減少と地域運営の担い手

桧原地区は高齢化が進み、若い世代や地域活動を担う人が少なくなっている。若い人を増やすことだけに期待するのではなく、現在暮らしている住民や職員が知恵を出し合い、今あるものを生かして地域を維持する必要があるとの意見が出された。

草刈りや共同作業では、高齢の住民も参加しており、現在の方法を続けることには限界がある。活動の範囲や作業量を見直すとともに、機械の活用や外部人材との連携など、少ない人数でも維持できる仕組みを考える必要がある。

(2) 除雪・農地・水路等の維持管理

冬季は、村道等の除雪だけでなく、自宅から道路までの間を誰が除雪するのが課題として挙げられた。現在は、機械を持つ住民が自宅周辺や近隣を除雪しているが、高齢化により作業を担えなくなった場合、生活を続けることが難しくなるとの不安がある。

また、耕作者の減少により農地の維持が難しくなっているほか、農地へ流れ込む支線水路が詰まり、大雨の際に水が畑へあふれる場所があるとの意見も出された。猿による農作物被害もあり、農地、水路、鳥獣被害を一体的に考える必要がある。

補助金を交付するだけでなく、実際に除雪や草刈り、水路管理を行う人を確保し、地域の善意だけに依存しない仕組みが求められている。

(3) 買い物と生活支援

以前は複数の移動販売が地区を訪れていたが、現在は利用できる機会が少なくなっているとの話があった。社会福祉協議会等による買い物支援も行われているが、利用できる人数や日程には限りがある。

現在は自ら買い物へ行ける住民も、将来運転ができなくなれば、日用品や食料の確保が難しくなるとの不安が共有された。

移動販売、買い物送迎、宅配等を組み合わせ、住民の状況に応じて利用できる仕組みを検討する必要がある。

(4) 地域行事と人が集まる場所

長年続けられているスポーツフェスティバルは、地区住民だけでなく、地区外から参加した人も一緒に楽しめる行事として評価された。人口が減少する中でも、人が顔を合わせ、交流できる行事は残していく必要がある。

一方で、以前はラビスパ裏磐梯などを利用し、各種団体の総会、反省会、慰労会等を行っていたが、今後こうした集まりに利用できる場所がなくなることへの不安が出された。

大規模で立派な施設ではなくても、50 人程度が集まり、食事や交流ができる場所が必要との意見があった。

（５）温泉・釣り・宿泊等の地域資源

桧原地区には、湖、温泉、宿泊施設、食堂、釣り、豊かな自然など、他地区にはない多くの資源がそろっていることが確認された。

バス釣りやワカサギ釣りなどを目的に多くの人々が訪れている一方、地域内で飲食や買い物をする場所が限られ、訪問者の消費が十分に地域へ還元されていないのではないかと意見があった。

温泉や食堂、宿泊施設を生かした滞在のほか、自炊を好む人に対応した民泊など、多様な過ごし方を用意することが考えられる。地域を大規模に観光開発するのではなく、現在ある資源を組み合わせ、訪れた人が地域内で滞在し、消費できる仕組みをつくることが重要である。

（６）桜並木と湖畔の景観整備

川沿いや道路沿いに桜を植え、桜並木をつくってはどうかという提案があった。住民からは、植栽後の手入れには協力できるとの意見もあり、地域が主体となって取り組む意欲が示された。

また、湖畔や道路沿いでは、長年成長した木々によって、以前より湖や周辺の景色が見えにくくなっているとの意見が出された。適切に伐採や間伐を行い、眺望を確保することで、住民にとっても来訪者にとっても気持ちのよい環境になる。

桧原地区は信号が少なく、ドライブやサイクリングにも適しているとの話があり、湖の眺望、道路沿いの景観を一体的に整えることが、地区の魅力向上につながる。

（７）既存施設・空き家・土地の活用

旧中学校やセミナーハウス等について、立地、グラウンド、調理設備、温泉などを生かし、研修、宿泊、キャンプ、大学のサテライト拠点、芸術活動等に活用できないかという案が出された。

一方で、建物の老朽化や過去の補助制度、借入金等による用途上の制約があり、利用には整理すべき課題も多い。活用を希望する人に施設の情報が届いていない可能性もあり、現状や利用条件を明確にして発信する必要がある。

空き家についても、未登記の建物や老朽化した建物があり、売買や活用が難しいとの意見があった。また、共有林や土地については、権利者が多数いることや、相続人を確認できないことから、管理や処分ができない問題が生じている。

地区や個人だけでは対応が難しいため、登記、所有者確認、活用、解体等を相談できる仕組みが必要である。

(8) 住民の取組を支える行政と対話の継続

参加者からは、地域の課題や施設活用について、以前から繰り返し意見が出されているものの、その後の取組につながっていないとの厳しい指摘があった。

制度や法律、財源等により難しいことがある一方で、前例がないことだけを理由にせず、実現するために何を整理すればよいかを考える必要があるとの意見も出された。

桜の植栽や環境整備など、住民が自ら取り組もうとしている活動については、補助金だけでなく、手続、資材、人材、関係機関との調整など、実際の行動につながる支援が求められている。

対話を行うだけで終わらず、出された意見をどのように検討し、何ができるのか、できない場合はなぜできないのかを継続的に住民へ示すことが重要である。

4 総合振興計画への反映に向けた視点

- ・人口規模に合わせた地域活動、共同作業、役割の見直し
- ・除雪、草刈り、水路管理を実際に担う人材を確保する仕組みづくり

- ・猿等による農作物被害への対応
- ・移動販売、買い物送迎、宅配等を組み合わせた生活支援
- ・スポーツフェスティバル等、人が交流できる地域行事の継続
- ・温泉、宿泊、食堂、釣り等を組み合わせた滞在・消費の仕組みづくり
- ・住民主体の桜並木づくりや環境整備への支援
- ・湖畔や道路沿いの間伐・伐採による眺望と景観の改善
- ・旧中学校、セミナーハウス等の利用条件の整理と情報発信
- ・空き家、未登記建物、共有林、所有者不明土地に関する相談支援
- ・住民の提案を具体的な行動につなげる行政の伴走支援
- ・住民意見の検討状況と取組結果を継続的に伝える仕組みづくり

5 まとめ

今回の対話では、高齢化による地域活動の担い手不足、除雪や草刈り、農地・水路管理、買い物、空き家や共有地など、桧原地区で暮らし続けるうえでの課題が共有された。

一方で、湖、温泉、宿泊施設、食堂、釣り、スポーツフェスティバルなど、他地区にはない多様な資源がすでにそろっていることも確認された。桧原地区では、新しい施設をつくることよりも、現在ある資源をどのように組み合わせ、住民の暮らしや交流、地域内の消費につなげるかという視点が重要である。

また、桜並木や環境整備について、住民自身が手入りに協力する意向が示されるなど、地域を良くするために自ら行動しようとする意識も確認された。

今後は、住民の努力だけに地域維持を委ねるのではなく、行政が制度や関係機関との調整を担い、住民の取組を具体的な行動につなげる必要がある。対話を継続し、出された意見の検討状況や結果を示しながら、今ある資源を生かした持続可能な桧原地区の姿をともにつくっていくことが重要である。

以上